

# 第1回 「馬のふるさと富里」

～ 駿馬 鎌倉号の記録 ～

林 田 利 之



図1 駿馬鎌倉の碑



## ●日本最古の競馬

日本では江戸時代末期に鎖国が解かれ、横浜に外国人居留地が設けられました。そこで行われた競馬（居留地競馬）が日本最古の洋式競馬とされています。現在資料によって確認が可能な最古の居留地競馬は、1860年（万延元年）に現在の横浜市中区元町において行われた競馬で、翌1861年（文久元年）には居留地内の海岸（横浜州干弁天社裏西、現在の横浜市中区相生町五丁目および六丁目）を埋め立てて造成した土地馬場が建設され、居留外国人が洋式競馬を行った記録が残されています。

さらに1862年（文久2年）には競馬施行体横浜レース・クラブが居留外国人によって組織され、1866年（慶応2年）に江戸幕府が横浜競馬場（根岸競馬場）を建設して以降は同競馬場において盛んに洋式競馬が行われるようになります。この競馬は治外法権に基づいており、幕府や明治政府による賭博の禁止の影響を受けることなく馬券が発売されたことも特徴の一つです。ちなみに神戸居留地の近くにも競馬場が作られましたが、こちらは数年で廃止となっています。

やがて根岸競馬場において行われた洋式競馬を模倣して、各地で競馬が行われるようになり、当時の競馬は政界、財界、あるいは軍や皇室、国賓などの上流階級のための催しとして行われ、紳士淑女の集う場所とされていました。しかしこうした日本人による競馬は馬券の発売ができなかったため、経済的な理由でおおむね明治30年代には全て廃れてし

まいました。また、この時期の競馬において競走馬として用いられたウマは主に日本の在来種（特に南部馬が良いとされ、初期の競馬においては数多く見られました。）およびその雑種であったことが特徴です。

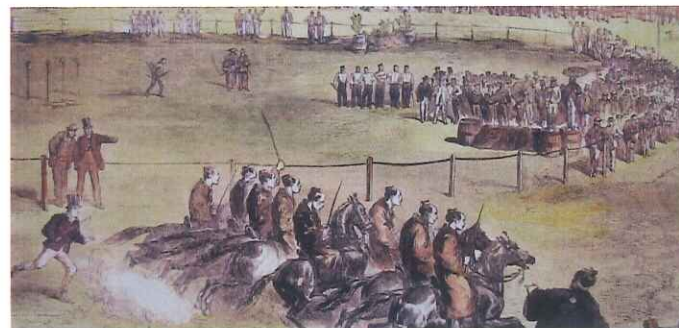


図2 武士による競馬を描いたイラスト（1865年（慶応元年）・於横浜・イギリス軍練兵場）



図3 摂州神戸西洋人馬駆之図（明治初期）



図4 横浜根岸競馬場一等観覧席（現根岸競馬記念公苑馬の博物館）